

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年12月1日～2018年12月7日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で下落しました。カナダ5年国債利回りは低下しました。

カナダ銀行(中央銀行)は金融政策決定会合で市場の予想通り、政策金利を据え置きました。またガソリン価格の下落により、インフレ上昇率は今後和らぐとの見通しを出したことから、利上げペースの鈍化が意識され、カナダの通貨は下落、金利は低下しました。米国株の下落により、投資家のリスク回避姿勢が強まったことも市場の下押し材料となりました。

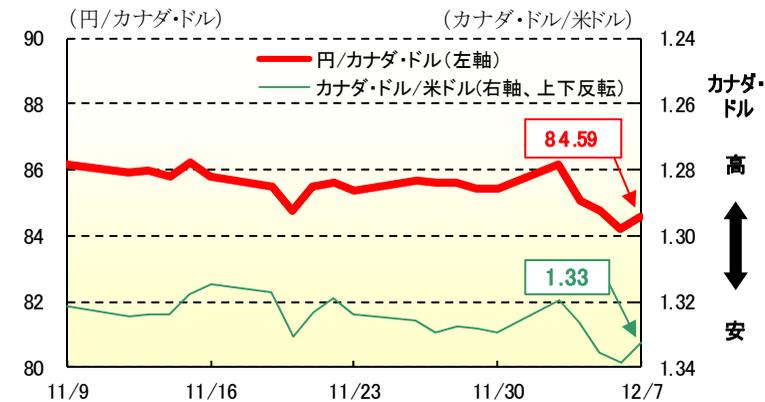
経済指標では、カナダの雇用統計が発表され、雇用者数、失業率ともに予想よりも良好な結果となりました。雇用者数に関しては、大部分がフルタイム雇用者数の増加となっており、雇用の質が改善していることが見てとれる結果になっています。

【2】今週の見通し

今週、12/10(現地)には、カナダの住宅着工件数が発表され、予想を上回る結果となりました。他にも住宅関連の指標が複数発表される予定になっていますが、注目度は低く、市場では原油価格や株式市場の動向などに注目が集まるとみえています。

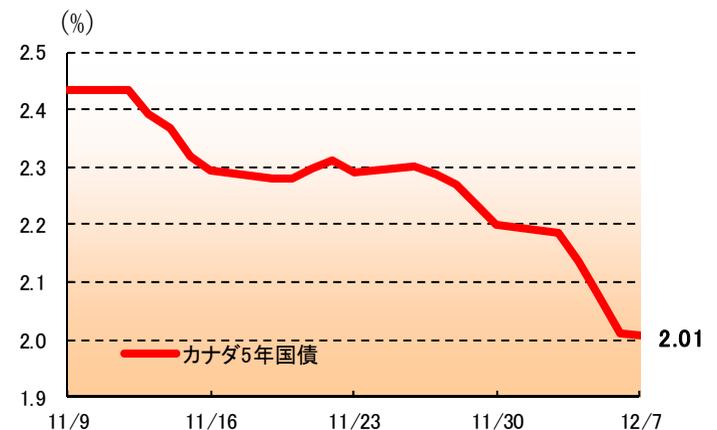
原油価格に関しては、足元、下げ止まる動きとなっています。先週、OPEC(石油輸出国機構)プラス会合で予想を上回る規模の減産で合意したことなどを背景に、さらに値を戻していくかどうか注目されます。株式市場に関しては、米中貿易摩擦懸念を受けて乱高下しており、カナダの金利、通貨も振らされる展開が想定されます。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年11月9日～2018年12月7日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2018年11月9日～2018年12月7日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>